

第30回京都府文化賞受賞者紹介

| | |
|---------|---|
| 受賞者の特徴等 | <p>○第30回を記念し、文化振興の分野を対象とした「第30回記念特別賞」を設置。(財)陽明文庫、(公財)ロームミュージックファンデーションが同賞を受賞。</p> <p>○京都で培われた伝統的な技の継承者の育成・伝承を図るとともに、多様な文化を創出するため、古典芸能、伝統工芸、舞台芸術、生活文化等幅広い分野から選定</p> <p>○過去功労賞既受賞者の北村武資氏、古谷蒼韻氏が精進を重ねられ、特別功労賞を受賞</p> |
|---------|---|

| | 氏名 | 年齢 | 受賞者紹介 | |
|-----------|--|----------|--------|--|
| 特別功労賞 | 阿部 光華 <small>あべ みつゆき</small> | 79 | 医学者 | がんの治療において、粒子線(陽子線・炭素線など)を用いた放射線治療の開発とその実現に大きく寄与。 |
| | 乾 由明 <small>いぬい しゆめい</small> | 84 | 美術評論家 | 西洋近代美術の研究・紹介に努める一方で、日本の近現代美術について活発な評論活動を行い、現代美術評論の最前線に立ち、多くの後進を育成。 |
| | 北村 武資 <small>きたむら たけし</small> | 76 | 織物作家 | 「羅」「経錦」の人間国宝。古代織の復元に留まらず、伝統的な織技をもとに真摯な研究によって機の魅力を最大限に引き出し、現代の美として独創的な作品を創作。 |
| | 木村 敏 <small>きむら びん</small> | 80 | 精神医学者 | 人間理解を哲学的に掘り下げて独自の精神病理学理論を構想し、「人と人とのあいだ」概念を軸にした臨床哲学的自己論を展開。 |
| | 古谷 蒼韻 <small>ふるや そういん</small> | 87 | 書家 | 古典に立脚した書を追求するとともに、書を自分の思想や美意識で濾過することにより、格調高い独自の作風を確立。 |
| 第30回記念特別賞 | 財団法人陽明文庫 <small>たうじんほうめいぶんこ</small> | 昭和13年設立 | 文化振興 | 近衛家の古文書、古典籍等の資料の整理・調査を行うとともに、学術研究者や一般への展示公開を行い、王朝文化、公家文化を後世に継承。 |
| | 公益財団法人 ロームミュージックファンデーション | 平成3年設立 | 文化振興 | 「京都・国際音楽学生フェスティバル」や音楽セミナーの開催、学生に対する奨学援助等を行い、文化の力による社会貢献活動で国内外の音楽文化の発展に貢献。 |
| 功労賞 | 池田 桂風 <small>いけだ けいふう</small> | 76 | 書家 | 日比野五風の師風を受け継ぎ、書の伝統を踏まえつつ、自身の感性を大切に現代感覚に富んだ秀作を発表。 |
| | 井肇 慶人 <small>いほや けいじん</small> | 70 | 染色家 | 自由で闊達、かつ温もりのある作風の糊染め・蠟染めで、身の回りの様々な自然をモチーフにした作品を発表。 |
| | ザイラー夫妻 エルnst・ザイラー 和子・ザイラー | 77 60 | ピアニスト | クラシックコンサートを身近なものとするため、全国で演奏活動を実施。南丹市に開設した「かやぶき音楽堂」でコンサートやコンクールを開催し、ピアノデュオの普及に尽力。 |
| | 千 宗室 <small>ちん せうむ</small> | 55 | 茶道家 | 和敬清寂の心を世界に向けて広く発信し、茶道の普及・発展に尽力。随筆集など文筆活動も展開。 |
| | 三好 莞山 <small>みよし かんざん</small> | 67 | 尺八演奏家 | 洋楽器とのセッションやジャズ、ポップスなどあらゆる音楽とのパフォーマンスを試み、尺八の楽器としての可能性を広く追求。 |
| | 望月 重延 <small>もちづき しげのぶ</small> | 68 | 漆芸家 | 朱・黒・両者の併用の3種類に制約された色彩と光沢美、単純化・抽象化されたフォルムによる生命力あふれた作品を、乾漆技法により制作。 |
| | 山本 兼一 <small>やまもと けんいち</small> | 55 | 作家 | 日本史の中心舞台となった京都において、徹底した取材と現場主義により緻密なディテールに満ちた世界を構築し、臨場感に溢れた独自の歴史小説を執筆。 |
| | 渡辺 信喜 <small>わたなべ のぶし</small> | 70 | 日本画家 | 自然の写生を重視した清らかな美しさをたたえる花鳥画で、身近な自然からその本質に迫る植物の神秘を表現。 |
| 奨励賞 | 上森 祥平 <small>かみもり しょうへい</small> | 35 | チェリスト | チェロの可能性を古典と現代の両方の視点から捉え直す試みを実践。ソロ・室内楽・主要オーケストラ客演首席等、精力的に活動。 |
| | 奥村 美佳 <small>おくむら みか</small> | 38 | 日本画家 | 風景を忠実に描くのではなく、その時々新しい視点で見つめ直して風景を再構築していく独特の手法により、風景画の新たな世界を表現。 |
| | 茂山 茂 <small>しげやま しげ</small> | 36 | 狂言師 | 舞台全体を冷静に見つめ、狂言の役に徹することを第一に演技する理論派。次代の担い手として狂言の普及と芸の継承に向けて意欲的に活動。 |
| | 曾和 尚晴 <small>そわ しょうはる</small> | 38 | 能楽幸流小鼓 | 繊細かつ大胆な音色を奏でる感覚派的な小鼓奏者。小鼓のレクチャーイベントを各地で開催するなど、能楽の普及と数層の高さの解消のため積極的に活動。 |
| | 福本 双紅 <small>ふくもと ふうこう</small> | 38 | 陶芸家 | ろくろによる研ぎ澄まされた面とエッジの成形で、緊張感を持ちつつ端正な調和のとれたフォルム、澄んだ白磁に釉調の微妙な陰影を特徴とする作品を制作。 |

(年齢は受賞日現在)